

NIHの長官諮問委員会、生物医学分野における若手研究者活用促進を求める報告書草案を発表
(6月14日)

国立衛生研究所(National Institutes of Health:NIH)の長官諮問委員会(Advisory Committee to the Director : ACD) は6月14日、大学生やポストクの供給過多と研究・教員ポジションの不足により、生物医学分野の研究システムは機能不全に陥っているとして、NIHによる対応の必要性を提言した「生物医学分野の労働力に関するワーキンググループによる報告書草案(Biomedical Workforce Working Group Draft Report)」を発表した。

同草案は、過去10年間で生物医学博士号取得者数が急増している一方で、教職員の高齢化により若手が研究・教員職に就く機会を逸していること、生物医学分野の研究者の報酬の低さと見習い期間の長さが優秀な人材の損失につながっていることなどを課題として挙げ、NIHに対し、①民間への就職などキャリアの選択肢を増やすプログラムの提供、②大学院生に対するNIHからの助成期間上限を6年までと規定、③研究主任(PI)が獲得する研究助成からの支出ではなく、個人を対象とした奨学金や研修グラントなどを通じた大学院生支援の拡充、④ポストク研究員の報酬額の増額、⑤スタッフ科学者の積極的活用とポスト増加の奨励などの改革を図るべきであると提言している。

なお、本報告書草案のエグゼクティブサマリーは
<http://acd.od.nih.gov/bmw_report.pdf>からダウンロード可能。

Science Insider, NIH Panel Urges Steps to Control Growth in Biomedical Research Trainees
<http://news.sciencemag.org/scienceinsider/2012/06/nih-panel-urges-steps-to-control.html>